

Health Impact Assessment の基本的概念および日本での 今後の取り組みに関する考察

フジノ ヨシヒサ マツダ シンヤ
藤野 善久* 松田 晋哉*

政策、施策、事業の計画段階において、将来それらによって起きうる健康影響が見落とされることはよくあり、その結果、健康に直接関連しないと思われていた政策が、重大な健康影響を与えた事例は過去に多く経験されてきた。このような認識が明らかになるにつれ、政策、施策、事業の計画時には、これらの健康影響を予め評価して、健康影響を是正するような取組みが国際的にも重要視されるようになってきた。このような背景のなかで、多くの政府やEUまたはWHO等の国際機関において Health Impact Assessment（HIA：健康影響評価）と呼ばれる手法が広く取り入れられるようになった。HIAは、意志決定を支援するためのツールであり方法論のことで、WHOによると「政策、施策、事業が潜在的に集団に与える健康影響や、集団中の属性による影響の違いなどについて判断するための一連のプロセス、方法、およびツールのこと」とある。近年では、新空港建設、ダム建設、雇用政策、および住宅供給政策など様々な分野においてHIAが実施されている。しかしながら、国内においてはHIAの情報はほとんどなく、公衆衛生の専門家や政策関係者においても認識は少ない。本稿では、HIAの概念、理論を紹介するとともに、国内においてHIAが普及するための考察を行った。

Key words：健康政策，Health Impact Assessment

* 産業医科大学 公衆衛生学教室
連絡先：〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学公衆衛生学教室 藤野善久